

「家族と子どもの貧困 —北海道・札幌市で実施した 大規模調査の結果から—」

松本教授（教育福祉論、貧困研究）は、2016年から17年にかけて、北海道、札幌市との共同で道内の子育て家族と子どもを対象として、大規模な生活調査を実施して、子育て家族の貧困が家族と子どもにどのような影響を与えているのか、家族と子どもが、直面する不利や困難が貧困とどのように関係するのかを明らかにすることを目指されました。この結果は編著書『子どもと家族の貧困—学際的調査からみえてきたこと』（法律文化社、2022年）としてまとめられ、その後も2021年から22年にかけて、北海道・札幌市の「子どもの生活実態調査」を実施され、継続的な研究が行われています。

前掲書で、松本教授は、調査対象の11.5%が、厚生労働省の相対的貧困率の推計に用いる貧困線以下の所得水準であり、これらは低賃金が主たる原因であると推察され、その半数は「貯金なし」世帯であること。4割が母子世帯で、貧困リスクが高く、子どもの養育・教育費は学年が上がるにつれて増大するので、低所得層の経済的困難は子どもの成長とともに深まっていくことを明らかにしています（ひとり親家庭の高校生への奨学金の給付に取り組んでいる私たちも、一人親家庭の高校生が卒業に際して、進学が就職かに深く悩むことに気づかされています）。

一連の調査で明らかになったことをお話していただき、先生も前掲書で仰っておられるように「貧困を今日の社会で共有されているはずの自由と平等という価値に照らして『あってはならない不正義』と考え、それをなくすための長い道のり」をどう展望していくかを共に考えてみたいと思います。

と き

2023年 **12/5** (火)
午前10時～12時(開場 9時30分～)

と ころ

ホテルポールスター札幌 2階「セレナード」
札幌市中央区北4条西6丁目

申込締切日

11/27 (月)



● 講 師

北海道大学大学院 教育学研究院 特任教授
松本 伊智朗氏

北海道大学大学院教育学研究科を経て、1991年から札幌学院大学人文学部教員、1997年から1998年にロンドン大学政治経済学院で在外研究。2010年、北海道大学教育学研究院教員となり、現在は北海道大学教育学研究院特任教授。所属学協会は、貧困研究会、日本社会政策学会、北海道子どもの虐待防止協会、日本社会福祉学会など。編著書に、『子どもと家族の貧困—学際的調査からみえてきたこと』（2022年10月）、シリーズ『子どもの貧困』全5巻（明石書店、2019年）、『子どもの貧困ハンドブック』（かもがわ出版、2017年）など多数。委員活動として、現在、子ども家庭庁子ども家庭審議会臨時委員を務める。

● 定 員 **100**名

● 参加の申込方法

お名前、郵便番号、住所、電話番号をご記入いただきハガキ、ファックス、メールでお申込み下さい。
当財団のホームページの「お問合せ・申し込み」でも申込できます。

主催：公益財団法人 コープさっぽろ社会福祉基金

後援：札幌市教育委員会、北海道生活協同組合連合会、北海道奨学金ネットワーク

お申込み・お問合せ先



公益財団法人
コープさっぽろ社会福祉基金

〒063-0831 札幌市西区発寒11条5丁目10-1
電話 011-671-5719(平日 月・火・木 午前10時～午後4時) FAX 011-671-5741
Eメール: csap.fukushikikin@sapporo.coop

スマホでの申込みは
こちら

